

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社 山秀		
事業所名	マミー・ケア・サポート グループホーム	ユニット名	マミーケアサポート2F
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬1丁目10番50号		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2274202437-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成27年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めます。
入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。毎週全員参加型レクリエーションを企画し、また地域での音楽会などの催しにご家族も積極的に参加して下さい、とても楽しみにして頂いています。四季の移り変りに合わせて、四季折々の花や掲示物などをかざる事で、季節を感じる事の出来る暖かい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ベテランの副主任が若い主任と職員とのパイプ役となり、利用者が生きがいをもって、ゆっくり、のんびりと楽しく日々が暮らせるよう介護サービスを実践している。主任は企画力に優れ毎月2回家族等を交えたお楽しみ会を行っている。他にも毎週全員参加のレクリエーションの開催や日常は職員が踊りを披露するなど、利用者を楽しんでいただける取り組みがされている。また、利用者の健康にも十分配慮し、食前の口腔体操をしたり、近隣の中学や高校・短大生の福祉体験と介護実習を受け入れるなど、地域とのつながりも深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう」という理念にもとづき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けた努力が実施されている。	企業の設立理念を念頭にホーム独自の理念として「ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう」を掲げ、日々のサービスを実施する中で、職員の意識づけと共有化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在も町内会に加入し、地域の行事や老人会ボランティアの受け入れにも積極的である。また、近隣の中学、高校、短大の福祉体験や介護実習も受け入れており、地域と密着した交流が実施されている。	町内会に加入して地域との交流やボランティアを積極的に受け入れる等、地域住民の一員として日常的に交流している。また、近隣の学校に対し福祉体験や介護実習も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と共に利用者様が日々、近所を散歩する折に地域の方と挨拶を交わすなど徐々に利用者様と地域をつなぐ様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様代表、施設長、職員で3ヶ月に1回の会議を開催している。	3ヶ月毎に、家族や施設長・職員で開催されている。意見や要望等は運営の中で活かすようにしている。	運営推進会議は、2か月に1回以上、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な会議であることを十分に認識され、利用者・家族等、地域住民(自治会役員、民生委員など)、地域包括支援センターや市の職員等に積極的に参加を働きかけられることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの指導のもと、必要に応じて連絡を取りながら質の向上そして協力関係を築くように取り組んでいる。	市との関係は、認定代行の申請手続や困難事例者の扱い及び事業の運営等について、報告や連絡・相談を密に行い、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員が「身体拘束」についての研修会に参加し常に理解を深めている。又、利用者様の生命を守るため、玄関等の施錠についてはご家族からの安心の声を頂いている。	社内研修に参加した職員を中心に勉強会を開催している。また、身体だけでなくスピーチロックやドラックによる拘束も学んでおり、日常生活の中でお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養う事で支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎ、実例を参考にし、伝達研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養う事で支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎ、実例を参考にし、伝達研修が行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項の説明、看取りの方針などに関してはゆとりのある説明時間の確保を図り、納得、十分な理解が得られるまでの説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	発意の弱い利用者様からは、利用者様の示す様子・しぐさ・態度などから判断し、それを運営に反映されているが、外部者へ表せる機会は設けられていない。	利用者とは日々の暮らしの中で、家族等に対しては訪問時や行事の開催・運営推進会議等の場において意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約・把握・検討する仕組みはあるが、現在、運営に関する意見は寄せられていない。	各フロアごとの副主任は日々の仕事をする中で職員からの意見や要望を聞き、また、毎月実施の会議においても意見や提案が言える環境を作り出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心、やりがいを持てるよう、様々な研修会に出席できるよう心掛けている。また、国家資格の介護福祉士免許の取得を斡旋し施設独自の研修を行ないサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のミーティングの反省から代表者も管理者や職員の力量を把握しており、法人内外の研修を受ける機会も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はネットワーク作り、スキルアップとサービスの向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し実施している。定期的に行うよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら本人の安定をできる限り除くために日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がまず必要としている支援をよく聞き取り、マッサージや音楽療法などのサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様への支援を継続する中で、入居時には見られなかった感情の表現や、会話が生まれ利用者様からのねぎらいの言葉かけをうける。自ら作業に参加され、職員が元気づけられる場面が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様へのお便りの発送や毎週火曜日にはご家族様も参加してのお楽しみ会、季節ごとの行事等を計画し、ご家族と共にご本人様を支援するための関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所や人間関係を継続するためには、ご家族の支援が欠かせないため、ご家族へ可能な限りご家族との外出を働きかけている。	本人の希望に沿って家族との外食やお墓参り等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また、散歩の折などには出会った人に挨拶をするなど、地域住民との触れ合いを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所関係が長くなってくると利用者同士の間人間関係形成され相互理解が進み、自然発生的に役割も出来つつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されて利用者様または、家族との関係を断ち切らない取り組みはあるが現在までに相談の問い合わせはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念をもとに、本人様と家族様に対し面談と書面にて意向の聴き取りに努めている。入居後は、利用者様の様子をよく見守りながらご家族様の目から見た意向との相違点があればよく聞き取り把握するよう努めている。	会話の中で本人から聴きとる。意志疎通が困難な利用者は表情・動作から職員がくみ取り、家族に聴き合わせるなどして、希望や意向の把握に努めている。個々の希望に沿う支援事例も聴かれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけ情報収集を行なうよう努めている。また、日常生活中にご本人様から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように、介護日誌等に記録しご本人様との対話が豊かになるように活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況は、毎朝のバイタルチェックを記録し生活上の安心、不安についてはご本人様への細やかな声かけにより把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の生活、身体状況に合わせ、課題とケアについて、本人・家族・医師との話し合い、職員間での意見交換も行いながら、創意工夫とアイデアを反映した計画の作成にあたっている。	モニタリングと本人や必要な関係者からの意見をもとに、職員会議で話し合い介護計画が作成されている。期間は長期で1年・短期で6か月としているが、状態や状況の変化にあわせてプラン変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有が出来るよう努め、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者やそのボランティアとの交流イベントへの参加、要望があれば、介護保険での個別支援も受けやすい環境が整えられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に合わせて、デイサービスの訪問するボランティアとの交流に参加、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者様の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため、口腔内の管理に即対応ができています。	協力医以外の医師をかかりつけ医としている利用者は、家族同行を原則としている。状況により職員同行も行っている。事業所とかかりつけ医の確固たる連携も築かれ、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、医療機関と利用者様のご家族様との連絡を密に行い面会の機会を得て、利用者様の安心につながる支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間をもち確認している。	本人や家族・関係者が話し合い、共有して看取りケアを実践しているが、緊急時の対応はマニュアル化されていない。	緊急時の対応マニュアルの作成と、本人・家族・全職員の共有を図り、適切な支援に繋がる取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一ヶ月に一度、テーマを決めて事故発生を想定して訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・職員が共に地域消防隊の立会い出合い指導の下、防災訓練を行っている。	月1回の防災訓練・年1回の大規模訓練を実施している。避難場所は近くのスポーツ広場としているが、建物強度の高い施設内も避難場所として考えている。利用者や勤務職員の3日分の備蓄品を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外には開ける事が出来ない書庫に保管している。利用者様への声掛けは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。	職員は常に、「敬語で話す」を自覚し、利用者の話しを妨げない傾聴と穏やかな語りかけをしている。職員の所作からも利用者の人格尊重が窺える。個人情報に関わる書類の管理や保管も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望は、やりとりを細やかに行う事で表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしが作れるようになっている。そうした対応も介護記録に記入し、申し送りで伝達出来る様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力又は事業者側で支援している。散髪などはボランティア(資格有)により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干し作り、干し柿作り、ちらし寿司作りなどをスタッフと一緒にこなしている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がっていただくよう努めている。	生活向上委員会を中心に、利用者の好みや希望が組まれた料理が食卓に上がる。食材調達や食器洗いをしたり、食堂に流れる歌謡曲をロズさんだりお喋りする人など、個々に食事を楽しむ様子が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立メニューは栄養バランスを考慮し、スタッフ全員が交替で立てている。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声かけと介助により行っている。異常があれば、歯科医が往診・受診出来る仕組みが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターン習慣をいかし気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめスタッフも確認できる仕組みになっている。	無排便日が続く利用者への処方薬服用も有るが、体操や唄・水分や繊維質の多い食材を日常的に組み入れ、排泄を促している。日中は可能な範囲でオムツ着用を避けるなど、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とにならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切に利用者様の希望に沿って気持ち良く入浴して頂くよう努めている。	浴室で職員と合唱したり、古来から親しんできたの季節湯や入浴剤を入れている。1番風呂の希望にそうなど、楽しめる工夫と個々に合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり安眠できるよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師からの指示連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量については処方箋によって理解しており、服薬の支援と症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での生活が定着する中で、一人一人の役割や楽しみごとが見えてきました。個別で支援する事と利用者様同士で共有しあう場作りを平行して作る努力を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を日常的に作るよう努めている。家族や地域の人々とも協力しながら支援している。	好天日はホームの周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交わしている。月に2回職員と紙芝居を借りて図書館に行く人もいる。墓参りなどは家族の同行を基本としているが、状況に応じて職員の同行もある。個々に沿う外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会や散歩時に利用者様が買物を出来る機会を設け、買物の楽しみが味わえる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	レクリエーションで利用者様一人一人がちぎり絵で作ったハガキを利用し、大切な人への交流、手紙を出すという楽しみを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は事務所と隣接し、来訪者と直接顔を合わせる事ができ、利用者様も覗いて会話を楽しまれている。廊下は広く明るいので壁に季節ごとの催し物の写真を貼り、利用者様は見て楽しまれている。	切り絵や季節感を演出した利用者の力作や写真が壁面に飾られ、ゆったりとした広さのホールにカーテン越しの日差しが注がれている。「邪魔にならない音楽が流れていて落ち着く」と話す利用者の声も聞かれ、居心地良さへの工夫が見て取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロー横の和室を気にいられている方、TVがよく見える位置がよい方、テーブルにて会話が弾む女性の方々、居室で合唱の練習をされる方、一人一人の居場所作りを今後も工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあい)の写真をおかれている方、好きな写真を飾られる方。少しの工夫で本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。	家族の写真や職員から贈られた誕生祝いのメッセージなどが飾られている。古風な鏡台と家具や机などが置かれた居間もあり、入居前の生活を彷彿させる。室内はシンプルに整えられ、安全性と居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前のドアへの名前プレートやトイレ前の表示を行い、利用者様にわかりやすくしている。又、手すりを廊下全体につけ安全に過ごせる環境づくりに努め、声掛け見守りにて自立支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社 山秀		
事業所名	マミー・ケア・サポート グループホーム	ユニット名	マミーケアサポート3F
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬1丁目10番50号		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=2274202437-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいをもち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めます。
 入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。毎週全員参加型レクリエーションを企画し、また地域での音楽会などの催しにご家族も積極的に参加して下さい、とても楽しみにして頂いています。四季の移り変りに合わせて、四季折々の花や掲示物などをかざる事で、季節を感じる事の出来る暖かい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいをもち、共に生きよう」という理念にもとづき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けた努力が実施されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在も町内会に加入し、地域の行事や老人会ボランティアの受け入れにも積極的である。また、近隣の中学、高校、短大の福祉体験や介護実習も受け入れており、地域と密着した交流が実施されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と共に利用者様が日々、近所を散歩する折に地域の方と挨拶を交わすなど徐々に利用者様と地域をつなぐ様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様代表、施設長、職員で3ヶ月に1回の会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの指導のもと、必要に応じて連絡を取りながら質の向上そして協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員が「身体拘束」についての研修会に参加し常に理解を深めている。又、利用者様の生命を守るため、玄関等の施錠についてはご家族からの安心の声を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養う事で支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎ、実例を参考にし、伝達研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養う事で支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎ、実例を参考にし、伝達研修が行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項の説明、看取りの方針などに関してはゆとりのある説明時間の確保を図り、納得、十分な理解が得られるまでの説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	発意の弱い利用者様からは、利用者様の示す様子・しぐさ・態度などから判断し、それを運営に反映されているが、外部者へ表せる機会は設けられていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約・把握・検討する仕組みはあるが、現在、運営に関する意見は寄せられていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心、やりがいを持てるよう、様々な研修会に出席できるよう心掛けている。また、国家資格の介護福祉士免許の取得を斡旋し施設独自の研修を行ないサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のミーティングの反省から代表者も管理者や職員の力量を把握しており、法人内外の研修を受ける機会も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はネットワーク作り、スキルアップとサービスの向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し実施している。定期的に行うよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら本人の安定をできる限り除くために日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がまず必要としている支援をよく聞き取り、マッサージや音楽療法などのサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様への支援を継続する中で、入居時には見られなかった感情の表現や、会話が生まれ利用者様からのねぎらいの言葉かけをうける。自ら作業に参加され、職員が元気づけられる場面が多い。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様へのお便りの発送や毎週火曜日にはご家族様も参加してのお楽しみ会、季節ごとの行事等を計画し、ご家族と共にご本人様を支援するための関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所や人間関係を継続するためには、ご家族の支援が欠かせないため、ご家族へ可能な限りご家族との外出を働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所関係が長くなってくると利用者同士の人間関係形成され相互理解が進み、自然発生的に役割も出来つつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されて利用者様または、家族との関係を断ち切らない取り組みはあるが現在までに相談の問い合わせはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念をもとに、本人様と家族様に対し面談と書面にて意向の聴き取りに努めている。入居後は、利用者様の様子をよく見守りながらご家族様の目から見た意向との相違点があればよく聞き取り把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけ情報収集を行なうよう努めている。また、日常生活中にご本人様から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように、介護日誌等に記録しご本人様との対話が豊かになるように活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況は、毎朝のバイタルチェックを記録し生活上の安心、不安についてはご本人様への細やかな声かけにより把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の生活、身体状況に合わせ、課題とケアについて、本人・家族・医師との話し合い、職員間での意見交換も行いながら、創意工夫とアイデアを反映した計画の作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有が出来よう努め、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者やそのボランティアとの交流イベントへの参加、要望があれば、介護保険での個別支援も受けやすい環境が整えられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に合わせ、デイサービスの訪問するボランティアとの交流に参加、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者様の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため、口腔内の管理に即対応ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、医療機関と利用者様のご家族様との連絡を密に行い面会の機会を得て、利用者様の安心につながる支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間をもち確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一ヶ月に一度、テーマを決めて事故発生を想定して訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・職員が共に地域消防隊の立会い出合い指導の下、防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外には開ける事が出来ない書庫に保管している。利用者様への声掛けは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望は、やりとりを細やかに行う事で表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしが作れるようになっている。そうした対応も介護記録に記入し、申し送りで伝達出来る様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力又は事業者側で支援している。散髪などはボランティア(資格有)により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干し作り、干し柿作り、ちらし寿司作りなどをスタッフと一緒にこなしている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がっていただくよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立メニューは栄養バランスを考慮し、スタッフ全員が交替で立てている。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声かけと介助により行っている。異常があれば、歯科医が往診・受診出来る仕組みが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターン習慣をいかし気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめスタッフも確認できる仕組みになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切にし利用者様の希望に沿って気持ち良く入浴して頂くよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり安眠できるよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師からの指示連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量については処方箋によって理解しており、服薬の支援と症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での生活が定着する中で、一人一人の役割や楽しみごとが見えてきました。個別で支援する事と利用者様同士で共有しあう場作りを平行して作る努力を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を日常的に作るよう努めている。家族や地域の人々とも協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会や散歩時に利用者様が買物を出る機会を設け、買物の楽しみが味わえる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションで利用者様一人一人がちぎり絵で作ったハガキを利用し、大切な人への交流、手紙を出すという楽しみを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は事務所と隣接し、来訪者と直接顔を合わせる事ができ、利用者様も覗いて会話を楽しまれている。廊下は広く明るいので壁に季節ごとの催し物の写真を貼り、利用者様は見て楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア横の和室を気にいられている方、TVがよく見える位置がよい方、テーブルにて会話が弾む女性の方々、居室で合唱の練習をされる方、一人一人の居場所作りを今後も工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあい)の写真をおかしている方、好きな写真を飾られる方。少しの工夫で本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前のドアへの名前プレートやトイレ前の表示を行い、利用者様にわかり易くしている。又、手すりを廊下全体につけ安全に過ごせる環境作りに努め、声掛け見守りにて自立支援をしている。		